第1回　第2次江別市観光振興計画策定委員会　会議録概要

日　時	令和5年8月2日（水）13時30分から15時30分
場　所	江別市民会館3階　31号室
出席者（8）名	委員長 / 藤本直樹　副委員長 / 北川裕治 委　員 / 内藤幸樹、山崎啓太郎、畠山真理、成田裕之、岡村恵子、奥平啓太
欠席者（0）名	－
傍聴者（0）名	－
事務局（5）名	経済部長、経済部次長、観光振興課長、観光振興課主査、観光振興課地域プロジェクトマネージャー
オブザーバー（4）名	第2次江別市観光振興計画策定支援業務受託業者
議　題	協議事項 ①江別市観光関連市場の現況と課題 ②次期計画の目指す江別市の観光像 確認事項 市民アンケート及び事業者ヒアリングについて

会議録

事務局	開会のことば
市長	委嘱状交付
市長	挨拶
各委員	自己紹介
経済部長	経済部職員紹介
事務局	会議成立報告
経済部長 （仮議長）	各委員の皆様から委員長、副委員長の選出について、ご意見ございませんか。
畠山委員	事務局案はございますか。
事務局	委員長は藤本委員、副委員長は北川委員にお願いしたいと存じます。
経済部長	皆様ご異議ございますか。
委員一同	異議なし。
委員長	それでは次第の6.策定委員会の概要について事務局より説明願う。
事務局	本委員会は、当市の地域資源や魅力を活かした観光振興施策の推進を目的とし、その指針となる第2次江別市観光振興計画を策定するため設置している。 委員会では、次の事項について協議を行い、その結果を市長に報告することとなっている。 （1）第2次江別市観光振興計画策定に関する事項、（2）第2次江別市観光振興計画の具現化及び推進に関する事項、（3）その他市長が必要と認める事項　についてです。 計画策定にあたり、6月に実施しました公募型プロポーザルにて、受託事業者を選定しており、本日同席している。
委員長	委員の皆様からご質問等はあるか。
委員一同	なし
委員長	それでは次第の7.第2次江別市観光振興計画の策定スジュールについて、事務局より説明願う。

事務局	お手元の「第2次江別市観光振興計画の策定スケジュール」資料をご覧ください。 （資料記載のスケジュールを説明）
委員長	動かせないのは、年度内に策定を完了させ、印刷・納品することであろうから、パブリックコメントの時期は予定から大きくずらせない。また、計画案のたたき台を策定する基礎資料として、市民アンケートや事業者ヒアリングがあり、これらも先送りはできないという理解でよろしいか。
事務局	ご理解の通り。
委員長	これらの点をコントロールポイントとして、全4回の策定スケジュールについて説明を受けたが、質問や意見、懸念点があればお聞きしたい。奥平委員、市民公募としてご参加いただいているが、予定を確認していかがか。
奥平委員	パブリックコメントは、12月、1月に間に合えば、そこから2か月ほど計画案を整えていけるので、良いのではないか。
委員長	第2次計画ということだが、現計画にも携わっていたのは、岡村委員だけだと認識しているため、何かあれば岡村委員にお尋ねするということでよろしいか。
岡村委員	覚えている限り頑張ります。
委員長	前回の検討プロセスを思い出してみて、どのあたりで議論が白熱したかご記憶はあるか。
岡村委員	それまでの観光は小麦やレンガをメインとしていて、それらとは別のものはないかということ、それに加え、地元のものをどのようにPRするか、別の観光とはどこにあるのか、という掘り返しから始めていた。 その中で江別市の歴史や札幌近郊でありながら農村が広がっていることなどが特産物となっていくのではないか、そういったまちに札幌をはじめとした江別市周辺から気軽にやって来られるまちを目指すといいのではないか、ということが議論の焦点になっていたと思われる。その中で、レンガややきもの市などの力の入れ方はさみしくなったが、農村あるいは直売所など、そういったものに繋がっていくことが増えたと思われる。
委員長	誤解を生む表現かもしれないが、江別という地域は、観光や交流という面から見ると、富良野やニセコ、函館などとは違う。 より観光や交流が、日常的な生活や産業と密接に結びついており、自然な形で存在しているがゆえに、別の観光とは何かや、そもそも地域の資源とは何か、というところを掘り下げることに、現行計画では苦労していたのかと受け止めた。 副委員長は、どのように議論をやりくりしていけば良いのかという点に、何かお気づきのことはあるか。
副委員長	かなりタイトである。委員会2回目にはほぼ案が固まっており、3回目には計画素案の報告となる。本日は顔合わせで、9月にいきなり色々な議論となると、少し厳しいと思われる。 場合によっては、もう1回スケジュール調整することや、紙でお互いに意見を出し合うなどの作業が必要なのかもしれないが、委員長の手腕と事務局の頑張りによっては、このままいくのではないか。
委員長	やはり第2回のメニューが非常に多く、ここでしっかり議論ができないと、第3回の計画論や文書としてのとりまとめが不十分になりかねないが、進行役としては何が何でもこのスケジュールに間に合わせて、9月下旬に予定されている第2回で検討項目すべてを手っ取り早く済ませようというつもりもない。 色々な意見、経験をお持ちの皆さんに集まっていただいているので、2回目と3回目の間に2.5回目にするか、3回目をぎりぎりまでずらせるのか。それらを含めて、進め方によっては、2.5回という追加が必要になるかもしれないが、山崎委員はいかがか。
山崎委員	委員長に一任する。
委員長	確定事項ではないが、皆さんで容易に合意できる話が多ければ、追加の会議はないかもしれない。ただ、この短期間でやりくりするためには、その可能性もお含みいただきたいがよろしいか。
委員一同	異議なし。

■協議事項①：江別市観光関連市場の現況と課題	
委員長	江別市観光関連市場の現況と課題について、事務局から説明願う。
事務局	（江別市観光関連市場の現況と課題について、事務局より説明）
委員長	ただ今の説明について、何か質問や意見等があれば、遠慮なく発言いただきたい。畠山委員、どうぞ。
畠山委員	通過型観光とは基本的にどのような観光か。観光しているのかしていないのか。
事務局	通過型とは、江別市に滞在する時間や、そこで落とすお金が非常に少ない状態の観光というふうに、こちらでは定義している。
委員長	厳密な定義はないが、通過型観光と言われると、どこかのスポットで写真を撮影し、別の場所に行ってしまうことや、道の駅などでトイレを使用したり飲み物を買ったりして別の場所に移動してしまうこと。それが数時間から半日となると、通過ではなく滞留。滞留よりも長くなると滞在。滞在だけでなく宿泊、というように、現地での滞在時間の過ごし方で、言葉の使い方が変わる。 他に質問や意見がなければ、私から聞きたい。資料9ページのSWOT分析で、外部環境・内部環境に分けた整理がされているが、江別市の弱みの5番目で、新規開業施設の開業効果があまり持続しないという書き方をされているのは、何か具体的な状況などを踏まえてのことか。
事務局	コロナ禍を挟み、データのとり方が難しい部分がある。資料6ページを見ると、市内観光入込客数は2016年をピークに減少傾向にある。参考資料22ページも参考にしていただきたい。新規開業した施設の数値を計上し、翌年には下がってしまう傾向が見られる。コロナ禍があるが、全体の傾向としては集客効果が翌年には下がってしまう傾向が見られるため、SWOT分析に記載した。
委員長	データの見た目上そう見えるが、EBRIが開業後に低下したのも事実だが、胆振地震があったためでもある。江別蔦屋書店開業後に新型コロナウイルスが蔓延したことから、持続力が弱い部分がある反面、外部環境による部分があるのではないか、ということも事務局にはご理解いただきたい。
事務局	理解している。
副委員長	2点確認したい。10ページに中規模な道の駅相当施設が複数存在というのは、どういうところをイメージでいるか、また、今後成果指標や評価を検討する際に、主要観光施設の中にどのような施設がどのくらい入っているのかを知らないと、委員が評価しづらい。主要観光施設の内訳がわからないと評価しづらいので、内訳はお知らせ願いたい。
事務局	コロナ禍もあり、個別の値の公表について難色を示している施設もあるが、データがないと裏付けもできないので、可能な範囲で提供したい。
副委員長	数というよりもどこが入っているのかを知りたい。
経済部次長	可能な範囲で有効な資料を提供できるよう検討する。
委員長	民間事業者に直接影響があるデータの出し方は難しい面もあるので、業種でまとめていただくことや、取り扱い注意という形でこの場限りで出すなど、事務局に一任したい。 リアルな数字を踏まえて方向性を決めたり、各論に入っていく必要もあると思うので、ご配慮願いたい。 私の記憶では、観光入込客数では、森林公園原始林が7割～8割という印象を持っている。日帰りの入込客数の中心となる施設はどこか。
事務局	江別蔦屋書店を計上してからは、蔦屋書店が最大で、次いで原始林を含めた一帯である。 中規模な道の駅相当施設とは、江別市に道の駅が欲しいという声がある一方で、河川防災ステーションやゆめちからテラス、ふれあいファームしのつやEBRIなど、江別産の物産品が買える施設が複数あるため、このように記載している。
委員長	江別蔦屋書店は利用者数をレジスター利用者の人数としてカウントしているが、それ以外の施設は道の調査方法に準じた推計値であるので、少しデータの精度は異なるが、定量的にどれくらいなのかということはある程度知っておきたいので、次回に用意ができればお願いしたい。
山﨑委員	観光協会でも、昨年、観光庁絡みのアンケート調査をしているので、その数値なども参考にしていいただきたい。観光協会が法人化して、色々な情報があるので、共有したい。

委員長	内藤委員は、6月にJR江別駅長となられたが、江別市在住と聞いた。よくご存知の場所も含めて話題になっていると思うが、これまでのところで意見や感想はあるか。
内藤委員	江別市に住んで30年になるが、偶然駅長となった。別紙にもあるPR不足を痛感している。例えば当社では、ヘルシーウォーキングという取組を行っており、そういった取組を活用して、列車を活用して、江別市に人を送り込むということは、コラボすればまだまだ増やせる。これをPRすることで、まだまだ人を持ってこられるのではという気がする。 現在、旧町村農場が工事をしているが、次年度のヘルシーウォーキングのコースに入れるなど、コース選定が10月ぐらいにあるので、駅長の推薦という形で、コースに入れてもらうことは可能。そのため、私をうまく利用してほしい。
委員長	ありがとうございます。江別市の観光資源としての強みや弱み、あるいは観光市場としての課題についても説明いただいたが、これらに関して、成田委員は意見や感想はいかがか。
成田委員	7ページ目の市内の主要観光資源ということで、市外へのアンケートということだが、これに加えて市内のアンケートと比較して、ミスマッチがないかを知りたい。レンタサイクルなどで、道内道外の方が来るが、大体野幌森林公園などが多いが、歴史名所を巡りたいという方が意外と多い。江別市民が行かないようなところにも行ったりなど、道外の方は札幌からすぐ来られて牧草ロールを見て喜んだりなど、そういうことも結構あるので、市民が思う名所と道内道外から来る人が思う名所には違いも出てくるのか、データがあれば嬉しいかと思う。
事務局	市民アンケートの箇所で詳細のご説明を差し上げる。
委員長	岡村委員は、前回と同じようなところから議論が始まっているかもしれないが、今までの説明を聞いて、質問、感想、意見があればお願いしたい。
岡村委員	まずはすごく納得できる部分があると思っている。弱点や観光市場の課題、今後の課題が明確になっており、わかりやすいと感じた。特にこの中規模な道の駅相当施設が複数存在していることは、それらが点在しており、回ることが難しいことなど、説明が納得でき、これまで感じていた課題が明確に文字になると、やはりこれから考えていかなければならないポイントなのだと理解できた。また、ゆめちからテラスなどが、そこに関する資料がないという話であったが、実際にはたくさんの集客があるのではないかと思う。直売所系の場所も含めて、地元や周辺から多くいらっしゃっていると思うので、その辺も一緒に調べていただければと思う。
委員長	岡村委員がおっしゃるように、分析としては的確で首肯できる記述が多い。今回の計画は、事細かな個別実施計画というよりは、ビジョンと計画の中間くらいのものだと理解しており、その際に、例えばそのような中規模程度の施設が複数、しかも点在しているということを弱みとして捉えるのか、それとも複数あるのだから繋いでネットワーク化してパワーアップできるチャンスと捉えて戦略を練っていくのかという点が、この委員会で知恵をしぼっていくことだと思う。 データの分析や客観的評価は、事務局が得意とするところだと思うので、加えて我々がどのように課題を突破していくか、どのように弱みを強みに変えていくかということを一生懸命考えられたら良いと思う。 私は経験や思いつきで前のめりに語ってしまいがちだが、多様な意見や指摘を頂ければ、皆さんの良いところを合わせた充実した計画づくりになっていくのでないか。 奥平委員はいかがか。一見すると、硬くて分析的な資料だが、わかりやすく説明されたこともあり、納得感はあったかと思うが。
奥平委員	小さいころから江別市に住んでいるが、なるほどと納得できる資料にまとまっていたと思う。委員長がおっしゃっていたように、これから計画を考えていく上で、事務局の話を聞きながら感じたのは、これはチャンスではないかということ。コロナ禍で旅行がコンパクトになり、函館などではなく、1日でコンパクトにより日常の近くでという流れの中で、江別には次の観光の形として流れが来ているのではないか、近いものがあるのではないかとい感じながら聞いた。その中で、国外からの観光客が回復してきていることから、海外の観光客という一つの柱と、もひとつが近隣の方、地域の近くにいる方が楽しめるような観光の、二つの柱で色々と考えていくと良いのではないかということを感じた。
委員長	ありがとうございます。畠山委員いかがか。
畠山委員	観光協会としても今後色々分析を進めていかなければいけないなと感じた。脅威の中で、デジタル対応の遅れによる観光客離れや、デジタル人材不足というのがあったが、例えばどのようなデジタルの導入があればいいのかや、どういった人材が不足しているのかなど、もう少しお聞かせ願いたい。
事務局	デジタル対応の遅れやデジタル人材不足は、江別市に限らず全国的な問題で、例えば、キャッシュレス対応や、そういった技術に対応可能なIT人材が、観光産業に従事していないという課題があると考えている。
委員長	SWOT分析とは、経営学ではよく使用するが、機会と脅威というのが外部環境と言い、江別市がいくら努力しても急には改善できないような江別市以外の世の中の流行や社会経済情勢を指す。私の解釈では、例えば海外ではUberをスマホで呼ぶことや、アプリ一つでルート検索して支払いを行い、乗継ルートやレンタサイクルなども含めて完結するような仕組みができているが、日本全体で見るとまだ足りないというようなことや、それらを仕掛けたりコーディネートしたりする人材が世の中的に不足しているという理解でよろしいと思う。 また、強みと弱みは内部環境といい、江別市が努力すれば弱みを強みに変えられるし、江別市がさぼっていれば強みが弱みに下がってしまうというような、江別市の努力によって、その捉え方も変わるというものであるという理解が一番わかりやすいように思う。現況や課題について、それ以外に質問や意見、要望はあるか。よろしいか。
委員一同	よろしい。

■協議事項②：次期計画の目指す江別市の観光像	
委員長	では次に、江別市の観光像をどう捉えていくか、という二つ目の協議事項である観光像の検討について、ご説明願いたい。
事務局	江別市の観光像の検討について、事務局より説明。
委員長	これから形づくっていく観光振興計画が目指す江別市の観光の方向性は非常に大切で、現計画と大きく変える必要がないのではないかという考えもあるし、現計画のニュアンスを踏襲しながらも、方向転換すべきじゃないかというご意見もあると思う。ここは皆さんからまず自由に意見を述べてほしい。
山崎委員	観光協会はポイントとしていることとして、これまで「食」、「農」、「れんが」としていたがこれだけだと現状から抜け出せなく、これ以外に何か必要だと感じている。その中でも「教育」という視点を大事にしていくべきだと思う。 　酪農学園大学、情報大学、道立図書館、野幌総合運動公園などがあるため、例えば、修学旅行の旅行先として江別市を選んでもらうことや、マルシェ等のイベントに市内外の学生に参加してもらう等できるため、「教育」という視点を大事にしていけば良いのではないか思う。
委員長	私も現計画を踏襲するだけでは起爆剤にならなく、現状維持になってしまうため、新しい何か引き金として「教育」が江別に向いている気がする。MICE等のビジネス観光をターゲットにするのが流行りではあるが、そうではなく修学旅行や江別市内外の社会見学であったり、食育だったり、歴史・文化を絡めることで発展の余地があるのではないかと思う。観光協会で議論する中で、素材はあるが、うまくコーディネートやプロモーションができるか等がセットになると思うのだが、その点観光協会の視点からアイディアや行き詰まり感等あるか。
山崎委員	デザインという仕事をしていて、やっていることは良いが見え方が良くないケースはよくある。見え方をちょっとずつ良くしていけたら、市内外の人がおしゃれ、かっこいいと思ってもらえられて良いかと思う。
委員長	山崎さんのおっしゃっているニュアンスというのは、やったことの見せ方というよりは、やることに惹きつけるための見え方ということか。
山崎委員	両方だと思うが、どっちかというときっかけとしての見え方が不足していると思う。
委員長	写真や動画を作成している、奥平さんは見え方、見せ方、仕掛け方についてはどう思うか。
奥平委員	江別は魅力的なことは点在しているが、写真や映像を誰かに届けることを大事にしていくことが次につながっていくのではないかと考えて、普段写真を撮っている。
委員長	副委員長は、商工会議所の立場から、市内の商工業者の方々の江別の観光のとらえ方はどう思われるか。
副委員長	おそらく、地元の商工業者はほぼ観光を気にしていない。そもそも、観光とは何かという考え方が統一されていないと思う。加えて、観光で売上を上げるための手順が明確でないと、商工業者の方は乗ってこないし現状でいいと答える。多くの商工業者は、観光で売上を上げるイメージを持てていないと思う。
委員長	岡村委員は、観光と普段のビジネスとはどのような兼ね合いで見ているのか。
岡村委員	基本は六次化という形で農家をしながら製品を作っていて、単純においしいものを作って買ってもらいたいという思いだけだった。長年やっていったうえで少しずつ地元のイベント等観光に接点を持つようになっていった。コロナ禍で大きな打撃を受けたこともあり、副委員長が言うように、売上を上げる手順が明確でなければ、観光といわれても一緒にやりたいとは正直思わない。 私は江別に来た当初は水田や夕日などの風景が観光だと思っていた。 　しかし、経営者としての立場からだと、観光にはイベント等、地元の盛り上がりが必要だと感じた。江別は通過の場所だが、その滞在時間を一時間でも長く伸ばしていけば観光に結びつき、地元商工業者の観光への参加意欲は向上するのではないかと思っている。
委員長	観光によって滞在時間をなるべく多くできれば観光消費額は比例するし、結果として、地元の商工業者は観光に対して本気になり、観光協会がそれをサポートをする等良い循環が生まれると思う。市内観光施設か、市外含めた広域での周遊観光によって、滞在時間を増やすことができるため、現状の観光を強化する上で周遊観光が重要な要素になるのではないかと考えてる。成田委員は、周辺7市町と地域のまちづくりプロジェクト支援をされているが、周遊や連携等お考えはあるか。
成田委員	一回来て一回で終わる観光ではだめだと思う。バスの場所を聞いても教えてくれないなどではなく、わかるまで一生懸命教えてくれるなど、人の温かみがある町だと観光スポットがなくてもまた来てくれるきっかけになるのだと思う。皆さんと意見は異なるかもしれないが、人の心を育てるというのも江別市にとっては大事なことなのではないかと思う。

委員長	江別市民が、江別のことをよく知らないなど、江別のためにそれほど十分に来訪者に対して温かみを示せていないとしたら、そこに対して啓発やプロモートを含めて子供たちの教育だけじゃなく市民教育という観点も、もしかしたら必要なのかもしれない。今の成田委員のお話を聞いて市民教育について考えはあるか。
畠山委員	先日江別市民向けに講義をした際に、江別市の観光のイメージについて聞いても観光のイメージを持ってない人が多いと感じた。観光振興計画として、日常の延長線上にあるっていうことはそこに暮らしている方がいて、その方々が楽しんでいることが観光になるという意識ができるような発信や見方をする必要があるのではないかと思い、そこが課題だと思う。 また観光として直売所で野菜を売るにしても、まずは市民が買いたいと思うようにならなければいけないと思う。加えて、市民にも、観光スポットや江別市の楽しみ方を熱心にPRできる人はたくさんいると思うので、そのような人達と連携して広げていけばいいと思う。
委員長	知られていないことを含めて、江別のブランド価値を高めていく必要があると感じる。内藤委員にお聞きしたいのだが、ヘルシーウォーキングの周遊のコース設定は出発地点と到着地点は一緒だと思うのだが、同じ沿線上で、少しずつ駅を変えたりする取組などはしているのか。
内藤委員	ないと思う。もったいないと感じており、新しくできる観光地などとうまく連携できればと思っている。毎年できるかはわからないが、年単位でコースを変更することもできる。
委員長	そろそろ観光像に関して整理していきたいと思う。行政の作る計画なので、理事者である市長の意向、上位計画、関連計画と整合性を取る必要がある。そこで、事務局に確認したいのだが、関連計画はあるのか。
事務局	農業振興課の江別市農業振興計画内に、美原地区にある都市と農村の交流センターえみくる、市内各所にある野菜直売所、などを通した都市と農村の交流推進において食の魅力を発信し、観光振興と連携しながら、交流人口の増加に努めていく方向性があることが、観光振興計画に関連があるといえる。現在の農業振興計画の第5次を来年に向けて作成している最中で、関連する部分については公表できる範囲、スケジュール的に公表できる範囲があれば、今後共有したいと思う。
委員長	承知した。観光像に関する論点は2つ挙げられているが、まず、1つ目として、次期5年間を踏まえた観光関連市場について、現計画を見直すと当然コロナを想定していないことや、その影響を含めて旅行の形態や志向の変化等、当然策定時と社会経済情勢は変化しているので、その辺を意識しつつ今度の5年間について目指す観光像を設定するということでよろしいか。単純に5年後だけを見ているのではなくて、10年、15年後を見据えながら次の5年間で何をやるべきかどうできるかというところに落とし込んでいくのだと思う。 2つ目として、現観光振興計画との親和性について大きく変える必要はなさそうで、現計画も3年半ぐらいはコロナの影響で、やりたくてもやれなかったこと等積み残しもたくさんあると思う。そこは一旦リスタートを含めて、新しい要素として山崎さんから出てきた「教育」を含めて、大きくは変えずに次の5年間どうしていくか目指すという理解でよろしいか。異議なしという理解でよろしいか。
委員一同	よろしい。
委員長	キャッチフレーズは事務局、委託業者に案を出していただきたいと思う。観光像については引き続き論点を引き出し、検討会で話し合う形でよろしいか。
事務局	承知した。
■確認事項：市民アンケート及び事業者ヒアリングについて	
事務局	市民アンケート及び事業者ヒアリングについて、事務局より説明
委員長	アンケートの質問はベースの共通する質問がある程度あって、江別市民向けと市外向けの質問が付け加えられたり外されたりするという感じでよいか。
事務局	その通りである。
委員長	まず市民アンケートについての手法はこれでよいか。
副委員長	収集先に違和感がある。RESASでコロナ前の日曜日の14時に江別に来る人を調べたところ、、1番目は厚別区、2番目は白石区、3番目は東区、4番目は北区、5番目は岩見沢市で、岩見沢市など空知からくる人が多い。観光も移住も12号線を通って空知からくるので、小樽の人は来ないと思う。その点考慮すると、岩見沢や美唄を優先して調査すべきだと思う。
委員長	北海道情報大学に通学してくる学生も、高速バスで岩見沢方面からがすごく通いやすくて学生も実は多い。そこで、契約上の仕様があるだろうが、総量は変えずに取集先を微調整できるようであればそこは検討いただきたいと思う。 これは、副委員長と同意見であり、要望として受け止めていただきたい。

委員長	市民アンケートの方法論について他に意見はないか。
委員一同	よろしい。
委員長	もし委員の方からアンケート項目に関して追加や修正の意見が出た場合、数日以内に、事務局に要望を出せが変更は可能か。
事務局	可能である。
事務局	皆さんには、修正案の受付期日に加えて、想定しているアンケート案をメールで送りたい。修正案はメールで受け取ったものをもとに検討したい。
委員長	アンケート案は、作りこみ前の段階で、もしくは現時点での設計段階のものを送っていただければ、リクエストも出やすいと思う。最終案は私も目を通し、皆さんからのリクエストを一言一句すべてを反映しきれないかもしないが、そこは委員長一任でよろしいか。なるべくバランスをとって皆さんの意見に沿うように判断したいと思う。
事務局	アンケート案は既に作成済みなので、この後すぐに事務局から送っていただくことは可能である。
委員長	細かいところは気にせずに現状の案を送付し、遅くとも8日火曜の17時までには意見を出してもらう。返信がなければ、送付した案で了承ということでよいか。
委員一同	よろしい。
委員長	それでは、事業者ヒアリングに関して特にご意見あるか。
山崎委員	去年観光協会でもアンケートを取っており、観光協会とコラボしたいという要望がいくつかでているので、もし参考になれば、後ほど情報共有したいと思う。
委員長	最後に事務局から何か連絡などはあるか。
事務局	次回スケジュールを早めに確定したいので協力をお願いしたい。
委員長	2回目の時は一人一人からすべての項目について掘り下げた発言を求めるような進行になりづらいと思うので、大変だと思うのだが、論点を明確にするためにもあらかじめ送付される資料を読みこんでもらい、できる限りの準備をお願いしたい。
委員長	閉会の言葉